

§16.

目的語がない – takeの知られざる使い方

ターゲット英文 16

A school sports day **takes quite a bit of organizing**; anything bigger, and the complications grow exponentially. [早稲田大]

notes ▶ anything bigger, and は条件を表し、「学校の運動会よりも規模の大きなイベントになれば」の意味。この構造については §30 を参照

organize という動詞は他動詞で、目的語を必要とします。ところがターゲット英文 16 では動名詞の organizing に目的語がついていません。そもそも、動名詞に a bit of という数量表現なんかつくのか？と思われる方もいるでしょう。これは一体どういうことなのでしょうか。

この謎を解くヒントは take という動詞にあります。take は基本動詞で、ものすごくたくさんの意味がある多義語ですが、一般にはあまり知られていないある特殊な使い方があります。それを理解すると、「organize の目的語問題」が解決できます。

まずは take の説明に入る前に、準備として、皆さんになじみのある need という動詞の“例の”使い方を復習していきましょう。

(1) In spite of such complaints, Sunday lunch was the time when our family spent two hours together talking about whatever **needed talking about**. [立命館大]

「そのような不平不満はあるものの、日曜の昼食は、私たちが家族で話す必要のあることについて何でも話し合うために一緒に二時間を過ごす時間だったのだ」

need は動名詞を目的語にとると、日本語で言えば「～される必要がある」という意味で、つまり、その動名詞は受身の意味を表します。似たような使い方をする語に worth という形容詞や deserve という動詞があります（ただし、deserve については §21 を参照してください）。

(2) Such ideas would have unknown side-effects, but they are **worth testing** in pilot studies. [北里大]

「そのような考えには思わぬ副作用もあるだろうが、予備調査で検証してみる価値はある」

ここでは、test の目的語が後ろにありませんが、意味の上では文の主語である they (= such ideas) です。そのように考えると、need と同じで、worth に後続する動名詞は受身の意味を表しているように見えます（(2) の場合、「そのような考えが検証される」という関係）。

ところが、細かく見ると、worth の構文と need の構文は様々な違いがあります。一例をあげると、need の後ろに続く動名詞は、訳すときに「される」という受身的な意味になるだけでなく、「～によって」という意味を表す場合、動名詞に by 句を後続させることができます。

一方、worth に後続する動名詞には by 句を後続させることができません。その意味で、**need の後ろにくる動名詞は文法的にも受身的**であり、**worth の後ろの動名詞は文法的には受身ではない**、と言えます。worth の場合、むしろ、目的語の位置が空所になっていると考えた方が適切で、要するに、This book is difficult to read. のような **tough 構文と同じ構造**をしていると考えられます（tough 構文については §17 で丁寧説明していますので、そちらをご参照ください）。

こうした違いのある need や worth ですが、いずれも**後続する動名詞の前に数量表現が置かれることがある**という共通点があります。ただ、そもそも動名詞に数量表現がつくことなんてあるのか、と思われる方も多いでしょうから、まずは need / worth とは関係なく、動名詞に数量表現がついている例を見てみましょう。

(3) There has been **some slowing down of growth** in South America and the Caribbean, where visits increased by only 2% and 1% respectively.

[昭和女子大]

§16.

目的語がない